

地震・雷・火事おやし

町火消

回覧

2022.3.1

かけはし

N027

二川小学校創立150周年記念事業実行委員会



暗闇の中、二川消防団
有事に備える

『災害は忘れた頃に、やってくる』

二川は木造家屋が東西に長く連なり道幅も狭く、一度火災が起こると大災害になってしまいます。

江戸時代、二川宿では度重なる火災によって、本陣職を勤めた名家、後藤家、紅林家が再起不能となった悲惨な経験をしています。

<主な大火災は>

1676—東残らず、被害両宿

1735—二川まで焼失 58軒焼失

1753—薬師門前より東残らず焼失 両宿焼失 160軒

1762—両町焼失

1776—大岩茶屋14軒焼失

1789—二川中町、新橋31軒焼失

1793—新橋、東町90軒焼失*：二川本陣焼失

1806—二川十七疋、中町、新橋町北側40軒焼失 *二川本陣焼失

1859—東町3軒焼失

1871—東町11軒焼失 二川13軒焼失

1882—松音寺本堂焼失 大岩20軒焼失

私たちは、この過去の歴史をふまえ、生命の安全のために、町民こそって自助・互助で火災予防に取り組むことが急務だと思います。

我が家の点検、備えを万全にしましょう！



がんばる、二川分団